



カイコとくらした むかしの農家

日本では1870年ころから、カイコを育ててマユにする養蚕がさかんになりました。
博物館にある旧河内家住宅でも養蚕が行われていました。
カイコや養蚕について、旧河内家住宅の展示を見ながら問題に答えてみましょう。

下の写真にあう説明を「①～④」からえらんでね。



- ① カイコが糸をはいて、この中でサナギになる。
- ② マユから糸を引き出して作る。
- ③ カイコガ(蛾)の幼虫で、脱皮をくりかえして大きくなる。
- ④ カイコはこれをたくさん食べる。

カイコがはいた糸を加工して、丈夫でキレイな絹糸(シルク)にします。
絹糸を織ってできるのが絹織物とよばれる高級な布です。

名前 _____

小学校 _____ 年 _____ 組 _____

カイコ用のリフォーム

旧河内家住宅は、江戸時代の1843年に建てられました。
1910年ころに、カイコをたくさん育てるためのリフォームをしています。

下の「①～④」のなかで、リフォームのおもな目的として正しい説明はどれかな？



正しいのは

園内には古い農家の建物がもう一つあるよ。
ちがいをくらべてみよう!

右のQRコードから旧河内家住宅のつくりや使い方を解説している「こども版かいせつシート むかしの農家とそのつくり」が読みとれます。



府中市郷土の森博物館 東京都府中市南町6-32 TEL042-368-7921
<https://www.fuchu-cpf.or.jp/museum/>

府中市郷土の森博物館



カイコを育てる



下のイラストは、1910年ころに府中で行われていた養蚕の様子です。



「①～⑤」の説明にあうものを「ア～オ」からえらんでね。



- ア 出荷するためにマブシからマユを外して集める。
- イ 卵からふ化したカイコを細かく切った桑の葉の上に移す。
- ウ マユを収穫しやすくするマブシにカイコを移す。
- エ マユを作りはじめようとするカイコを木皿に集める。
- オ 桑の葉をたくさんあげる。

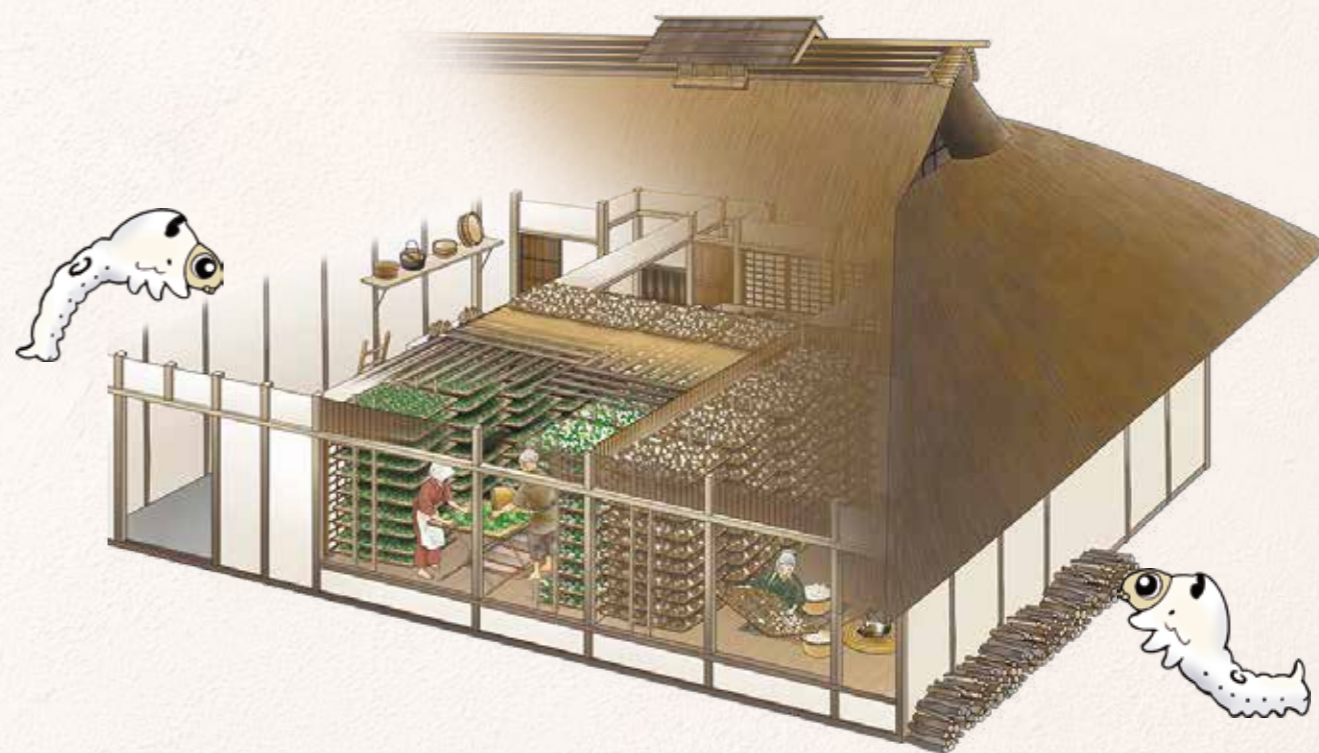
府中では、養蚕農家のほとんどがマユで出荷していました。品質のよくないマユは家で糸にして布を織ったり、布団に入れる真綿にしたりしました。



カイコとくらす



このイラストは、旧河内家住宅内で養蚕をしていたときの建物の使い方を再現したものです。



養蚕のためにこの家で行っていた「ア～エ」の説明でまちがっているのはどれかな？

- ア カイコをたくさん育てられるように、蚕棚を使った。
- イ 昼も夜もカイコに桑の葉をあげて、食べ残しやフンの掃除をした。
- ウ 暑い日はすずしい地下室にカイコを運んだ。
- エ 養蚕がいそがしいので、お盆の時期をかえた。



1890年ころから、カイコを28℃くらいの部屋で育てると早くマユになり、風通しをよくすると病気になりにくいという知識が広まりました。温度や湿度をコントロールすることで、春から秋にかけて3回ほど養蚕が行えるようになりました。

しかし、生糸の値段が下がった1930年ころから、養蚕をやめる農家がふえてきました。そして1985年ころには、府中で養蚕はまったく行われなくなりました。